

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000366		
法人名	株式会社 道央ケアセンター		
事業所名	グループホームつつじⅡ(第1ユニット)		
所在地	北海道小樽市朝里川温泉2丁目694番地4号		
自己評価作成日	令和2年1月10日	評価結果市町村受理日	令和2年3月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境に位置しており、四季を感じる事が出来ます。暖かい季節には、周辺の山々・草花、景色を眺めながらゆっくりと散歩を楽しむ事ができ、中庭では、ホーム喫茶やガーデンランチを楽しんだり、花壇や家庭菜園があり、利用者様と一緒に水やりや、野菜を育てて収穫をし、食事メニューに盛り込んで美味しく頂いています。家庭的な雰囲気の中で、利用者様1人ひとりが、ゆったりと安心した生活が送れる様に努め、地域の方々と交流を深めながら、地域に密着したグループホーム作りを目指し取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=0172000366-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和2年2月6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

温泉街の一角に立地し、同じ敷地内には2カ所の系列グループホームが隣接しており、行事など合同で行われている。周辺は、自然豊かな環境にあり、小鳥やキツネ、リス等を目にすることができる。運営推進会議は、土曜日の開催にもかかわらず、家族はもとより小学校PTAや消防、警察の署員、地域包括支援センター職員の参加があり、各立場での意見や情報が得られている。食事は、畑の野菜を活用したり、裏山で採れたフキ、ウド、タケノコの下ごしらえを利用者と行い天ぷら御膳を堪能している。秋には、利用者と1年分の漬け物作りを行っている。家族も頻りに訪れ、他の利用者にも声かけするなど馴染みの関係にある。地域の子供達や各種ボランティアの交流は、利用者に程よい五感刺激となっている。職員は、買い物ツアーで利用者の楽しそうな様子を見て、今後も楽しめる計画の立案を検討している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない	
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない	
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない	
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない	
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム独自の運営理念でポリシーを決め、常に目の止まる場所に提示し、理念に沿ったサービスを提供しています。社内研修にも取り入れ実践に繋げています	事業所内の随所に、法人の運営理念・5箇条からなるポリシーと、職員の思いを反映した事業所独自の理念を掲示している。日々の業務や社内研修で、理念やポリシーが初心に戻る道標であることを学んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の小学校の行事へ参加させて頂き、お祭りやクリスマス会、雪あかりの雪像作り等ボランティアの方・子供の協力を頂き、楽しく交流をしています	職員は、開設当初から地域との関わりを大切にしている。運動会など小学校行事への参加、地域の子供会とクリスマスや雪あかりのオブジェ作りでの触れ合い、歌会など、各種ボランティアとの交流が恒例となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、地域の民生委員、消防、警察、ご家族様が参加し、利用者様のホームでの日常の様子や、認知症の理解や支援方法等話し合っています		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、自己評価・外部評価について報告しています。日々の改善・取り組みに向け、意見交換を行ってサービスの向上に活かしています	会議は定期的に行われ、小学校PTAの一人を含む関係者の出席を得て、事故報告や写真で活動状況を公表している。議題に沿った意見交換や、メンバーはもとより消防や警察署員による情報提供もあり、運営の充実に生かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話や窓口で事業所の実情やケアサービスの取り組みについて色々と相談し、アドバイスを受け、協力を築ける様に取り組んでいます	事故や各種報告書は、担当窓口に出向き提出すると共に、事業所の現況を報告している。運営推進会議や実地指導、相談時は、各担当者から得た情報や意見を、運営やケアの改善に繋げている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束廃止委員会を開催し、社内研修にも取り入れています。禁止対象になる具体的な行為も職員が正しく理解し、日々のケアに取り組んでいます	身体拘束廃止や虐待の防止については、指針やマニュアルに則り、適正化委員会や研修を適宜開催している。日々の業務に於いても事例検討を行うなど、適切なケアへの周知を図っている。人感センサー使用時は、家族の同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修で繰り返し学ぶ事で、虐待について職員が行っているケアを見直す機会を作り、日々の生活の中で利用者様の変化に注意を払い、防止に努めています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月に1度社内研修を実地し、職員全員が理解を深め、個人の必要性を話し合い、知識の向上に努めます		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービス提供前に契約書・重要事項説明書について、ご家族に説明をしています。不明な点については、話し合いをし、納得して頂けるように努めています		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の方の面会時にご意見やご要望を伺っています。ご家族があまり来られない時は、電話やお手紙で対応し、意向に沿ったケアを行える様にしています	面会簿には、意見や要望の記載欄がある。職員は、家族が言い易い雰囲気作りに努め、出された意見は迅速に改善策を検討している。家族には、「つつじだより」や個別のメッセージ、運営推進会議の議事録等で利用者の日常を伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を重視し、気付いた事・感じた事を定期的に会議を行い、意見交換が行える機会を設けています	代表者が来訪の折には、職員に声かけをするなど、コミュニケーションを図っている。施設長や管理者は、常に職員の意見に耳を傾け、内容によっては職員間で協議したり、個別の面談や代表者の指示を仰いでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力が発揮出来る様に努めます。それぞれが目標を持ち、積極的に資格取得に取り組む、向上心を持って働ける様に努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、社内研修を実施し、外部研修へも参加しています。資格取得を目指す職員へは、勉強会を開催し、テキストや実技についてアドバイスをしています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互訪問研修を通じて、同業者と交流し、意見交換を行い、研修で感じた事を今後のサービスに繋がる様に努めています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています	事前に要望等を聞き、不安なく入所出来る様に見学を勧めたり、実際に見て頂き、ご家族やご本人が安心して入所出来る様に努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安やご要望を聞き入れ、ご希望に沿った支援を行い、ホームとの信頼関係作りに努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な支援がある度、話し合いご本人・ご家族のご要望に合った対応に努めています		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と一緒に出来る事は、手伝って頂き、分からない事を教わりながら、良好な関係を築ける様努めます		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やお電話にて、ご本人の様子をお伝えし、ご家族からの要望をお聞きし、安心して生活出来る様に努めます		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にも協力を頂き、面会に来て頂いたり、馴染みの場所へ出掛けたりして頂いています	家族や友人、知人等の面会時は、居室にお茶を運ぶなど、寛げるよう配慮している。行事を通じた地域との交流は、馴染みの関係にある。葬儀参列の協力をしたり、昔話を傾聴している。外泊や理美容室など、家族の支援も得られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりの性格を把握し、利用者様同士の相性にも配慮して、その方に合った生活出来る様、工夫し支援しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、これまでの関係を大切に、相談や心配事があれば、いつでも連絡頂けるようにお伝えしています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でご本人に寄り添い、希望や意向を聞き、意思疎通が難しい場合は、表情や言葉などから思いを把握するように努めています	職員は、利用者との信頼関係構築に努めている。会話や仕草、表情等から要望を汲み取れるよう、わずかな変化も見逃さない取り組みが行われている。状況によっては、ケアプランに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から情報を聞き、日々の生活の中で出来る事は継続して頂ける様努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方や、心身状態を把握し、無理のない程度に出来る範囲で能力を発揮できるように努めています		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向を聞き、担当者会議で適切なサービスが出来る様、見直しとケア方法を話し合い、介護計画を作成しています	実情に即したケアプラン作成にあたり、関わりから得た利用者や家族の思いに沿って、評価や課題分析を行っている。医療関係者の意見を踏まえ、要望が叶えられる支援目標になるよう検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を、個別に記録して職員間で話し合い、情報を共有しています。又、モニタリングを行い、介護計画の見直しに活かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内や中庭・散歩道は自由に利用する事ができ、宿泊の要望があれば、その時のニーズに合わせて対応しています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員・消防・小学校のボランティアの方々のご協力を頂き、安全で豊かな暮らしが出来るように努めています		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前の掛かりつけの病院を、今後も継続するか、施設の紹介する病院へ移動するかは、ご本人と家族の希望に沿って適切な医療が受けられるよう支援しています	2カ所の協力医院の送迎が定期的であり、職員が同行している。協力医院以外の受診は、基本的に家族対応とし、困難な時は、職員が受診支援を行っている。系列デイサービスの看護職員に相談ができる関係にある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理を行い、変化があった場合は協力医療機関である、東小樽病院や朝里中央病院等の看護師に相談し、適切な処置が受けられる様に支援しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、安心して治療が出来る様に病院やご家族と情報交換、経過を共有し、早期退院が出来る様に努めます		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいます	重度化や終末期については、サービス開始前に説明しています。協力医療機関や他の施設と連携し、その状態に合った支援が受けられる様に取り組んでいます	看取り支援は行わない方針を、入居時に利用者や家族に説明し、同意を得ている。職員は、最大限のケアに努め、状態悪化時には、主治医、家族と今後の方向性を協議する態勢を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修などで応急手当の方法や初期対応が出来る様に学んでいます。今後も職員全体が実践出来る様に努めます		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の協力を得て、定期的に日中や夜間を想定した避難訓練を安全に行っています	消防署や地域に協力要請を行い、同敷地内3事業所合同で日中・夜間想定避難訓練を行っている。公的や一時的避難場所も確認し、地震対策や災害時備蓄品も随時揃えている。	土砂災害の危険性が考えられ、速やかに退避できるよう検討が行われており、防災対策の意識を高めているが、さらなる地域との協力体制や、あらゆる災害やケア場面の対応強化を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、相談事などは個別にお部屋で聞くなどし、穏やかに生活が出来る様に対応します	接遇に関しても十分注意を払っているが、不適切なケアには管理者が助言を行うなど、共通認識に努めている。申し送り時は、利用者の名前を出さないで情報交換できるよう工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を伺えるように声掛けをし、話しやすい環境を作るように心掛けています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お食事・入浴・行事の参加はご本人のご希望や体調・ペースに合わせて、無理のない様に支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族に協力して頂き、季節や気温に合った服装や、美容室へ行く事が出来る様に支援しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いがある方には、好みに合わせて、食事を提供しています。職員も一緒に食卓を囲み、無理のない程度と一緒に配膳・下膳を行っています	法人作成の献立表をもとに、利用者や季節に応じた食事を作っている。裏山で採れた山菜の下ごしらえを利用者と行い天ぷら御膳に、秋には、利用者と一緒に漬け物作りに精を出し、一年中食卓を彩っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの体調や好みに合わせて、食事量やお粥・刻み・トロミなどの調節をしています。食事の摂取量や水分量は毎日記録しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態に合わせて歯磨きを促し、不十分な時は仕上げ磨きや義歯洗浄の援助を行っています。夕食後は義歯をお預かりし、消毒をしています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを把握し、自立されている方は、現状維持出来る様見守ります。困難な方は、援助を行い、プライバシーに配慮したトイレでの排泄を目指して支援しています	自力での排泄や夜間のみポータブルトイレの使用、声かけや誘導を行うなど一人ひとりの対応に努め、トイレでの排泄を基本としている。排泄状況は、介護記録で確認できる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけの病院に相談し、下剤の量を調整しながら、排便の有無の確認をして記録しています。また、冷たい水や牛乳を飲んで頂いたり、マッサージをしています		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ゆったりとした浴室で、1人ひとりの体調や気分を考慮しながら、週二回以上の入浴が楽しめるように支援しています	循環器が設置された湯船の中で利用者は寛いでおり、笑い声や歌、本音が聞かれる場面になっている。状態により足湯をしながらのシャワー浴を行うこともある。浴室や脱衣所も暖かである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムに合わせ、夜間はゆっくり安眠出来る様に、日中の活動を促し、夜にゆっくり眠れるようにしています。夜間は定期的に巡視を行っています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の説明書を事前に確認し、副作用・用法・用量について理解し、服用中、体調の変化の確認に努めています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの出来る事、得意な事を把握して、一緒に行って頂いたり、嗜好品の継続や、歌会・ホーム喫茶や散歩にお誘いし、気分転換を図っています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の小学校の運動会や学習発表会へ参加したり、ホームでは、春はお花見に出かけたり、秋には紅葉狩りへ外出しています。またご家族の協力で、外出、美容室へ出かけられています	事業所は、自然豊かな場所に立地しており、内外で四季の移り変わりを目の当たりにできる環境にある。中庭に設えた喫茶室でのティータイム、プランターの花を眺めたり、地域行事の参加や景勝地をドライブで訪れている。家族の外出支援も得られている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で金銭管理をしている方はおりませんが、ご本人の希望があれば、ご家族と相談しながらお預かりしているお小遣いを使う事も可能です		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や親しい友人からのお電話の際は、直接お話をさせて頂いています。ご本人より希望があれば、こちらからお電話をかけています		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、季節に応じた飾りつけをしたり、利用者様の書道や塗り絵などの作品を展示しています。室内の温度調節を行い、快適に過ごせる様に努めています	各ユニットには、雛人形が飾られており、落ち着いた環境の中にも華やかな雰囲気漂っている。食事と寛ぎのコーナーが別々にあり、メリハリある設えになっている。清掃、採光、温湿度にも配慮がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人ひとりの居室がありますので、自由に居室でゆったり過ごされたり、フロアでは気の合う利用者様同士が近くでお話出来る様工夫しています		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、ご家族と相談をし、ご本人が使い慣れた家具や小物などを配置して、今まで通り快適に過ごして頂けるように工夫をしています	程よい広さの居室には、調度品や仏壇などが置かれ、壁面や小タンスの上には、家族写真や職員手製の誕生日カードが飾られている。安心・安全に生活できるよう、家族と一緒に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部の居室やトイレには、誰が見ても分かる様に、目印や見出しを付けたたり、名前を付け、不安なく自立した生活が送れる様工夫をしています		